

令和6年度 徳島大学・高知大学・香川大学共催「授業について考えるランチセミナー」
10月 <学生の学習への動機づけを高める授業づくり> 報告書

■ 開催日時

第1回: 10月10日(木) 12:05~12:50

第2回: 10月17日(木) 12:05~12:50

■ コーディネーター・講師・登壇者

コーディネーター: 吉田 博(徳島大学高等教育研究センター)

第1回: 講師: 吉田 博(徳島大学高等教育研究センター)

第2回: 講師: 吉田 博(徳島大学高等教育研究センター)

■ 参加者数

第1回: 65名

第2回: 63名

■ 内容

第1回: 今週はまず学習に対する「動機づけ」についての理論的な説明を前半に行い、それを踏まえたうえで後半には学生の意見から具体的に「動機づけ」を高める授業実践の工夫について紹介がなされるという構成をとってセミナーが行われた。

「動機づけ」に関する理論的な説明においては、鹿毛(2013)をもとに「動機づけの三水準」および「動機づけの四要因」について説明がなされたあと、動機づけの重要な点として、動機づけの要因は学習者のみにあるのではないこと、学習者の学習意欲は必ずしも持続するものではないこと、同じ場面でも学習者によって動機づけには個人差があることが挙げられた。それらを踏まえた上で、「動機づけの四要因」である認知・環境・欲求・環境の4つの面から動機づけのアプローチを行うことの重要性が示された。

さらにこれらの理論的な側面に続けて、どのような方法をとることで学生は学習への動機づけを高めるか、実際の学生の声で紹介された。その例として、「教員が自分のことを認知してくれること」「評価観点を事前に提示してくれること」が挙げられた。これらについて、「動機づけの四要因」のそれぞれの面からなぜ動機づけにつながるのかが説明されたのち、授業で行える具体的な事例が紹介された。

参考文献: 鹿毛雅治(2013)『学習意欲の理論: 動機づけの教育心理学』金子書房。

第2回: 今週はまず前回の振り返りに加え、寄せられた質問についての説明からセミナーがスタートした。質問の中には、動機づけの変化によって学習者が自己調整学習者となりうるかどうか、学習方略がどのように異なるかといった質問や、分野や学問領域による動機づけの違い、授業を改善する目的で行ったにもかかわらず失敗した事例について聞きたいといったものがあった。これらについて、各種文献等をもとに講師から解説が行われた。

その後、実際に動機づけを高める意図での授業実践事例について、徳島大学高等教育研究セン

ターが収集・公開している「学生の学習を促進する授業事例カード (<https://gakunai.honbu.tokushima-u.ac.jp/highedu/card/index.html> ※徳島大学内からのみアクセス可能)」から紹介がなされた。例えば動画を活用した解説を行う方法や、その分野における最新の研究成果を解説したりそれらに関連した小レポートを課したりすることで動機づけを高めるといった方法が示された。加えて、学生の質問を何らかの方法で集めその場で回答するといった方法も、学生に授業への参加を促すことで動機づけを高めるために有用であることが紹介された。その後は質疑応答がなされ、具体的に授業で動機づけを高めるための方法をどのように取り入れるか、実践する際の不安や懸念といった参加者からの質問について講師から回答・解説が行われた。

■ 成果と課題

参加者アンケートを行った結果、「5. 本セミナーは今後の教育活動において有益なものであった」という設問において、第1回はほぼ全て、第2回では全ての回答者から肯定的な回答（「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）を得ることができた。また、他の設問においても回答者の大半から肯定的な回答が得られた。

表 アンケート設問「5. 本セミナーは今後の教育活動において有益なものであった」回答結果

	第1回 (10月10日)	第2回 (10月17日)
とても当てはまる	17 (73.9%)	13 (59.1%)
どちらかといえば当てはまる	6 (26.1%)	9 (40.9%)
どちらかといえば当てはまらない	0 (0%)	0 (0%)
まったく当てはまらない	0 (0%)	0 (0%)
合計	23 (100%)	22 (100%)

※その他のアンケート項目の結果はグラフを参照。

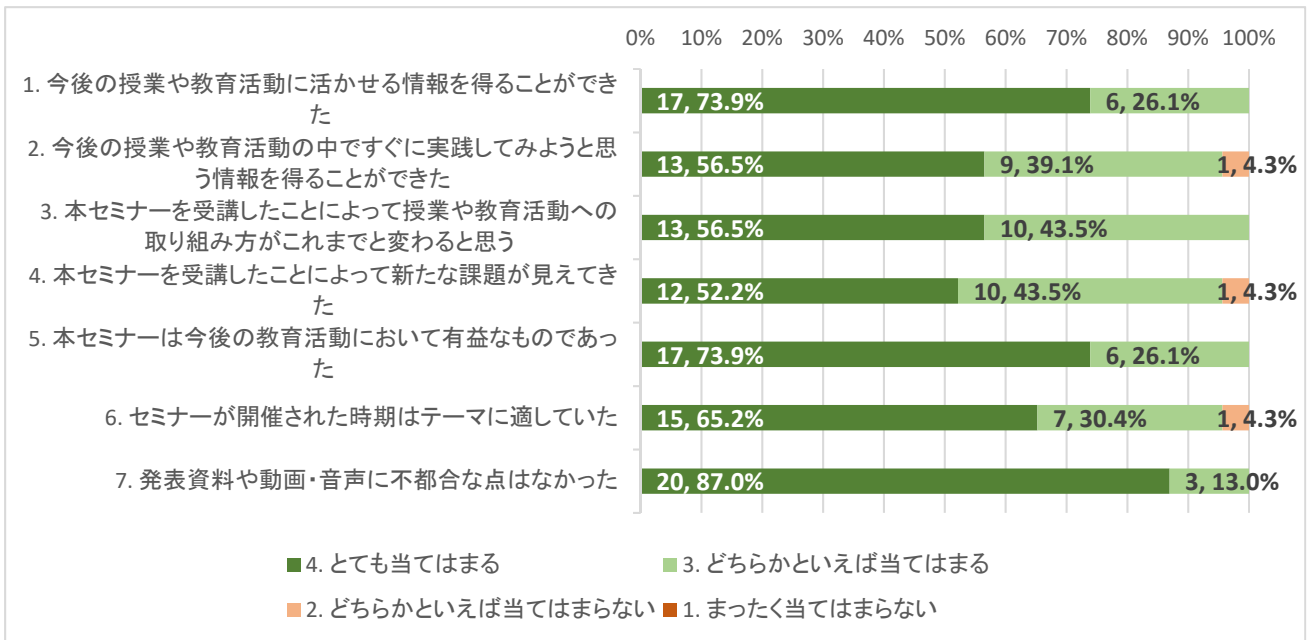
自由記述においては、第1回・第2回ともに学生の動機づけや学習意欲に関する理論に加え、学生の声や具体的な授業への活用事例が多数示された点を評価する意見が多く寄せられた。また文献や資料についての紹介があった点についても参考になったという記述が見られた。

一方、アクティブラーニングが学生の動機づけに失敗する事例や、学習方略を改善するような取り組みについても紹介して欲しいといった希望も見られた。これらは時間内で紹介することが難しかったものの、参加者が今回のテーマについて高い関心を持っていることを示すものと考えられる。

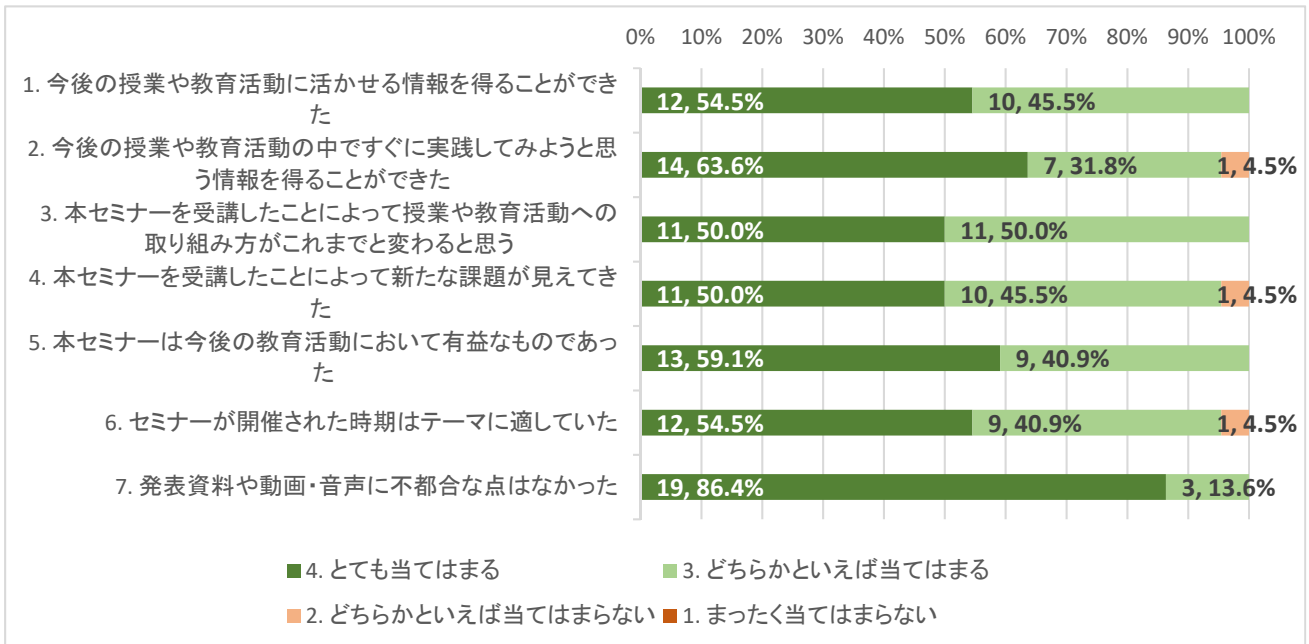
概して、今回のセミナーは参加者の関心も高く、かつ理論的な解説と具体例の紹介の両面を取り上げたことで多くの参加者のニーズを満たすものとなったと言える。今回の結果を受け、引き続き参加者のニーズに応えるセミナーを設計・実践したい。

アンケート回答結果

第1回 (n=23)



第2回 (n=22)



■ セミナーの様様（アーカイブ動画より抜粋）

学習意欲と教育

- ◆ 学習意欲は個人内における心理過程の単なるアウトプットではなく、「場と個人の相互作用」によって立ち現れるダイナミックな心理現象である。つまり、**学習者が意欲的な姿を見せるかどうかの要因は学習者のみにあるのではない。**
- ◆ 教育の場における学習意欲は**不安定な「波」**のようなものであり、**必ずしも持続しない。**
- ◆ どのような学習内容、学習方法を好むかなど、**教育のあり方との相性には個人差がある。**同じ場を設定してもすべての学習者が必ず意欲的になるというわけではない。



1. 動画を活用しながら解説する

徳島大学 生物資源産業学部 宇都義浩 教員 生物資源産業学部専門科目「創薬学」2018年

授業の構成に合わせて、短時間の動画を視聴し、教員が解説を加えることで、学生の理解を促進したり、授業への集中力の向上や動機づけにつなげる。

★今回の事例では、授業構成に合わせて次のように工夫している。

授業の導入:「創薬に関する**最新のニュース**(約1分30秒)」の動画を見せて、本日の授業に対する動機づけや学習する内容を確認する。

内容の解説:「創薬に関する**物質や用語の解説**(2本;約1分30秒、約3分)」の動画を見せて、教員が説明を加えることで授業内容の理解を促進する。

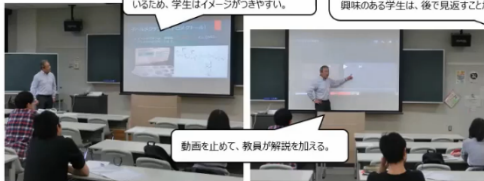
興味を喚起する:「**ノーベル賞受賞者**の大村智先生の**講演**(約1分程度)」の一部見せることで、授業内容に対する動機づけを行う。

本日の授業内容に関する最新情報や社会とのつながりなどを示すことで学習への動機づけを行う。



授業の導入

物質の構造や実際の商品と共に説明しているため、学生はイメージがしやすい。



動画を止めて、教員が解説を加える。

授業内容の解説

ノーベル賞受賞者の大村先生の講演の一部を見る。YouTubeの動画を活用することで、授業では一部を紹介するだけでよく、興味のある学生は、後で見返すことができる。



研究や学習への動機づけ

